

令和7年度 自 己 評 価 表

47

宇和島南中等教育学校

クラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)				カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)	
○進取の精神と幅広い教養を身に付けた思いやりにあふれた個性豊かな生徒 ○国際感覚とシビックプライドを持ち、社会の変化に柔軟に対応できる生徒 ○向学心と探究心が旺盛で、自らの進路を切り拓く意欲を持つ生徒				○一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、希望する進路実現を目指します。 ○進んで学ぶ意欲を高め、心身の調和の取れた生徒の育成を目指します。 ○座官学と協働した問題解決型課題研究に取り組み、地域創生に貢献する人材を育てます。 ○海外との交流活動等を実施し、グローバルな視点を有し、地域の未来を担う人材を育てます。 ○豊かな創造性と、高いコミュニケーション能力を備えた国際的人材を育てます。	
領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
シラ ラ シ ・ ユ ・ ボ ・ ユ ・ シ ・ ラ	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿った教育活動に努める。 ○グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上を目指す。	A	校長のリーダーシップの下、全教職員がグラデュエーション・ポリシーについて理解し、その実践に向けて取り組むことができた。その結果、98%の教職員が生徒の成長を感じることができた。	令和9年度より新校宇和島南高校となるが、中等教育学校のグラデュエーション・ポリシーを継承する部分も多くあると思うので、引き続き全教職員で取り組んでいきたい。
学 習 指 導	教科指導の充実	分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。 ○学校評価アンケート(生徒用)による評価 A:3.4以上 B:3.3 C:3.2 D:3.1 E:3.0以下 出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 A:60%以上 B:59~50% C:49~40% D:39~30% E:30%未満	A	学校評価アンケート(生徒用)における評価は3.6であった。	小テストや課題の充実を図り、基礎・基本の確かな定着を図る。また、習得した知識・技能を新たな課題に柔軟に活用できるよう、応用力の一層の伸長を目指す。
		ICT機器の活用を推進し、分かる授業を通して生徒の学習意欲の向上に努める。 ○南校ティーチャーズウィーク(相互授業参観[年1回])の実施期間中に、1人1台端末等のICT機器を活用した授業 60%以上	D	1か年皆勤率は全校平均が34.5%であった。	登校し、授業に主体的に参加することの重要性について、生徒への理解をさらに深めていきたい。学習機会の確保と学力向上のため、継続的な働きかけを行い、望ましい生活習慣の形成を支援したい。
			A	○南校ティーチャーズウィーク期間(6月)中にICT機器を活用した授業の平均は72%であった。	1人1台端末等のICT機器を効果的に活用することはもちろん、生徒の学習に対する興味や意欲の向上に結びつくよう、引き続き授業改善に努めたい。
	家庭学習の充実	目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 3・4年生 160分以上 A:160分以上 B:159~150分 C:149~140分 D:139~130分 E:130分未満 5・6年生 200分以上 A:200分以上 B:199~190分 C:189~180分 D:179~170分 E:170分未満	B	○家庭学習時間()内は塾での学習時間を含んだ数値 3・4年生 140分(154分) 5・6年生 200分(233分)	今年度の学習時間は、昨年度とほぼ変わらない結果となった。4・6年生は目標時間を上回ることができ、後期生のスタート、締めくくりへの自覚を感じる。どの学年も進路実現に向けて、適切な目標設定をさせ、意欲的に学習できるよう指導していきたい。
生 徒 指 導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。 ○家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。 ○問題行動発生件数0	B	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができている。 ○問題行動発生件数 前期1件 後期1件	年度初めの生徒指導委員会をはじめ、学年会や職員会議及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行い、常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努めたい。
	部活動の充実	他校との連携を図りながら、達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法を工夫する。 ○県総体出場者 前期30人以上 後期100人以上 ○全国大会出場 体育・文化部含め4部以上	C	どの部も部員数減少の中、工夫した取組をしている。また、部活動指導員、外部指導者を増やし、より専門性の高い指導を行うことができた。 ○県総体出場者 前期24人 後期117人 ○全国大会出場 日本文化部(囲碁)	部活動の位置づけが大きく変化している社会状況を見ながら、生徒へ活動の意義を理解させ、他校との連携を工夫したい。
進 路 指 導	進学・就職指導の充実	進学希望者に対して、進路実現を図る。 ○国公立大学合格率 40%(42人)以上 A:40%以上 B:39~35% C:34~30% D:29~25% E:25%未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 5人以上 A:5人以上 B:4人 C:3人 D:2人 E:1人以下	B	○国公立大学合格53.3%(56人) ○難関国公立大学と医学部医学科合格者4人(過年度1人)(3月10日現在)	前期試験を終えた時点で47%の生徒が合格しており、これは、中等教育学校になって最高であった47.1%に次ぐ成果である。後期試験に向けて受験を最後まで全うした生徒の成果にも期待したい。難関国公立大学への合格も出ており、今後も生徒が高い志を持ち、粘り強く努力できるよう指導していきたい。
		就職希望者に対して、進路実現を図る。 ○就職希望者に対する面接 2回	A	担任を中心に早めの対策ができ、公務員、就職ともに合格できた。	今後も個別に指導する体制をとるが、就職については早めに準備するよう、今まで以上に取り組んでいきたい。
		地域DXを支えるデジタル人材の育成に努める。 ○大学情報系学部及び情報系専門学校への進学率 A:20%以上 B:19~15% C:14~10% D:7~5% E:5%未満	D	○情報系の4年制大学4人、専門学校2人の計6人が進学。 (6/105人 約6%)(3月10日現在)	4年次より情報系に興味ある生徒のスキルアップを目指し、大学や専門学校の協力で集中講義等を行うなど、生徒の進路につながる指導に取り組んでいきたい。
同 和 ・ 人 権 ・ 教 ・ 育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 慈善活動の企画・参加を奨励する。 ○「人権だより」の発行 月1回	A	今年で4年目になるが、人権委員会を中心に、ウクライナとロシア両国並びに世界の平和を願い、中庭でひまわりを栽培した。また差別解消に向け、生徒自身が作詞・作曲した『宇和島南人権ソング』を人権を確かめあう日や掃除の時間の中で活用することができた。さらに宇和島市内の子ども食堂等のボランティア活動にも多くの生徒が積極的に参加し、地域との協働を図ることができた。 ○「人権だより」の発行 月1回	引き続き「今、自分たちにできること」を考え、平和を願う活動や地域と協働した活動を実践し、人権意識の高揚を図りたい。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
人権・同和教育	人権意識の高揚	いじめを許さない心、命や人権を大切にすることを育成し、気軽に相談できる体制をつくる。 校内外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をより良くするためのアンケートの実施 年2回 ○ジブンミカタプログラムの実施（前期生）	A	いじめ問題等の防止・解決に向けて、教職員研修、生徒への啓発活動、いじめ問題等対策委員会を実施した。 ○学校生活をより良くするアンケートを年2回、またジブンミカタプログラム（前期生）を実施し、悩みや相談に対して迅速に対応することができた。	『学校いじめ防止基本方針』の周知やいじめ問題等の防止・解決に向けて、引き続き、教職員研修や啓発活動、相談体制を充実させたい。また、いじめ問題等についての認知、初期対応を迅速かつ丁寧に組織立てて行い、各課や関係機関との連携を深めながら、居心地の良い学校、環境づくりに努めたい。さらに前期生が活用したジブンミカタプログラムを今後も使用できるよう、周知、推奨していきたい。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、いじめを許さない集団づくり並びに差別の解消に向けた実践力を養う。 地域と連携した活動に積極的に参加する。	B	いじめを許さない集団づくりや差別の解消に向けた実践力を養うため、宇和島市人権・同和教育推進委員会と連携し、人権集会を実施した。また様々な活動の中で、人権感覚を育成する指導を推進し、一定の評価を得られた。	これからも地域と連携した活動に参加し、人権課題やいじめ問題の解決に向けて、実践力を養う活動を進めていきたい。
健康・安全指導	心身の健康増進	倫理意識の高い職場づくりを推進するとともに、職場で気軽に相談し合える環境を整える。 家庭と連携を図り、健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指すとともに、感染症や熱中症予防に努める。 ○「保健だより」「食育だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回	B	心電図・尿検査など疾病につながりやすい項目では、高い再検査受診率を維持することができた。一方、う歯や視力といった日常的な健康管理に関わる項目では受診率が半数に満たなかった。熱中症対策では、体育科教員・部活動顧問と連携し、予防の徹底を行った結果、大きな事故無く安全に学校生活を送ることができた。感染症対策においては保健だよりなどを活用して感染症状況や予防行動を適宜周知し、感染予防に努めた。「食育だより」の月1回の発行、「保健だより」の月1回の発行・ホームページへの掲載を実施した。	疾病に関する検査項目では成果が見られた一方で、視力・う歯などの受診率の向上が課題である。家庭と協働して健康課題に取り組む体制をさらに強化したい。 今年度で前期生がいなくなるので、次年度以降給食が無くなり、それに伴い「食育だより」の取組も終了する。
		特別支援教育校内委員会にて、配慮を要する生徒への理解、共有を図り、教職員、相談員が連携し、柔軟な対応を行う。	B	SC、SSNと連携し、生徒や保護者の悩みに向き合うことができた。また、担任や学年主任とケース会議を開き、共有しながら進めることができた。	配慮を要する生徒、不登校傾向の生徒に対して、担任、学年主任、支援員、SC、SSNと更に密に連携し、より良い方向に進めていきたい。
	安全指導・点検の強化	非常震災や事件・事故、感染症などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 生徒が主体的に行動できるよう、10名以上の防災士の資格取得を目指すとともに、ぼうさいこくたい等への参加など地域防災リーダーの育成を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	B	6年生の有志で地域の防災ラジオの収録を行い、地域の防災意識の向上に貢献した。また5年生のグローバル・アクティビティ（総合的な探究の時間）防災班の生徒が東北視察に参加し、復興デザイン会議で発表した。防災士の資格は4年生2名が受験し、1名が取得した。その結果、校内での取得者は全体で8名になった。 ○避難訓練は予定通り実施した。	南海トラフ地震への備えがより重要になってきている事をふまえ、生徒の防災意識を更に高めさせ、避難場所までの避難だけでなく、その後の避難所運営などの訓練も実施したい。
		交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップに努める。 ○交通事故発生件数0	A	委員会活動、街頭指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。また、駐輪場で交通安全委員が自転車の施錠について声掛けやチェックを行い、施錠率100%を達成した。	継続した指導の徹底を図り、交通マナーアップの向上に努める。自転車に対する交通反則通告制度の導入に合わせ、交通安全教育の充実を図りたい。
		定期的な安全点検及び校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。 備品整備の充実等、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	A	随時安全点検を行い危険箇所の早期発見、早期対応に努めた。また、学校再編校舎整備事業における本館内部改修、情報・イノベーションラボ・デジタルラボ・ランダー・ジラボ教室整備、トレーニング機器導入等を実施するとともに、DX事業にて武道場プロジェクター音響装置、ミーティングボード整備を行った。	学校再編計画の改修も大詰めを迎えており、引き続き危険箇所の早期発見、迅速な対応に努め、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備を進めたい。
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように、教科や学級活動、ホームルーム活動等も利用して指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 A: 6冊以上 B: 5～4冊 C: 3～2冊 D: 1冊 E: 0冊 ○読書冊数 一人年間17冊以上 A: 17冊以上 B: 16～14冊 C: 13～10冊 D: 9～6冊 E: 6冊未満	B	○書籍年間貸出冊数 一人 5.2冊（前期1.0冊/後期6.3冊） ○読書冊数 一人 13.0冊（前期8.5冊/後期14.1冊）	前期生の貸出冊数と読書冊数が年々減少している。また、本を読む生徒と読まない生徒の差が大きい。生徒や教員のニーズに合った本の選定方法を検討するとともに、図書委員会を活用し、読書や図書室に関心を向ける取組を考えたい。
	情報処理教育及び情報管理	1人1台端末等のICT機器を授業等で効率よく活用するために、学習支援システムの研究やスキルアップ研修の機会を増やす。	B	AI活用研修、モバイルプロジェクター接続研修を行った。研修会以外でEILS-PBTやZoom、Teamsなどの操作について個別に解説を行った。	教員の実情に合わせた研修及び個別解説を行う必要がある。教員間のICTスキル格差が大きいため、授業や他の校務で活用できる内容を扱った研修を計画して行いたい。
		情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B	情報セキュリティ研修を2回に分けて実施した。セキュリティ監査の実施に伴い、セキュリティ実施手順の見直しや、機器の管理簿等の整理を行った。	学習系・校務系におけるデータ及びクラウド上でのデータの取扱いに注意する。アカウントやパスワードの流出などが起こらないようセキュリティ意識を高めていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	働き方改革を推進する。行事や会議の縮減・簡素化、部活動休養日の徹底を図り、ワークライフバランスの向上を目指し、教職員のやりがいや意欲を高める。	B	昨年から継続して、支援員の配置や、定例の運営委員会の廃止、職員会議開催時の短縮授業の実施、行事に応じた授業時間数の削減等を行っている。その結果、ストレスチェックの結果において、全ての項目において県の平均を上回っており、業務の円滑化やワークライフバランスの向上につながっていると思われる。また、教職員のやりがいや意欲も高まっていると感じる。	今後はEILS-PBTのさらなる活用やテレワークの活用を呼びかけ、教職員のゆとりを生み出す取組を実施していきたい。また、教職員のやりがいや意欲を高めるために、管理職による面談なども積極的に行っていききたい。今後も働き方改革の推進に努め、教職員が心と時間のゆとりをもって、業務に当てるよう業務改善や環境整備に努めたいとともに、週1回の定時退勤も目指したい。
	特色ある学校教育の推進 その他	DXへイスクール事業並びにグローバル・アクティビティ（総合的な探究の時間）を通して、地域を支えるデジタル人材及びグローバルな視点で地域課題を捉え、解決を図るグローバルリーダーを育成する。 ○情報に関する資格取得率5%以上 ○情報系コンテストへの応募5件以上 ○各種コンテスト（情報系を除く）への応募・連携事業への参加10件以上 ○海外との交流活動や短期語学留学プログラムへの参加 延べ40人以上 ○課題研究活動への大学教授及び地域人材の招へい 延べ50人以上	B	○情報に関する資格取得率0% ○情報系コンテストへの応募0件 ○各種コンテストへの応募・連携事業への参加（20件） えひめサイエンスチャレンジ2025/SBスチューデントアンバサダー四国大会/愛媛大学アントレプレナーシップ/全国高校生フォーラム/愛媛大学南予水産研究センター訪問/水産技術体験授業（宇和島水産高校合同）/予土あす青春18高校生シンポジウム/大洲フィールドワーク（大洲高校合同）/長浜フィールドワーク（長浜高校合同）など ○海外との交流活動や短期語学留学プログラムへの参加（延べ150人） ハワイ短期語学研修/ハワイインターン生との交流/3校合同ベトナム研修/モザンビーク武器アート作家とのワークショップ ○課題研究活動への大学教授および地域人材の招へい（延べ57人）	各種コンテストや連携事業への参加生徒は着実に増加している。今年度は、本校単独の語学研修に加え、3校合同のベトナム研修を実施し、国際交流の機会をさらに拡充し、生徒の異文化理解を一層深めることができた。また、課題研究の一環として進路課と協働し、夏休みに4年生対象の「進路探究集中講座」を2日間開催した。30名以上の講師を招き、大学教授による先端講義、地域人材によるワークショップ、企業との座談会など多様なプログラムを提供し、生徒が地域社会や先端技術への理解を深め、自身の進路と関連付けて考える機会となった。次年度は、情報系基礎技術を習得させるため、松山大学との連携を活かし、DX社会に対応できる基礎的技術力を育成するプログラムを課題研究に効果的に組み込みたい。
	学校経営・運営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○授業公開日 参観保護者 40%以上 ○PTA総会 参加率 30%以上 ○保護者との交流行事 年5回以上 ○ホームページアクセス数 1日平均 500件以上	B A	授業公開日の保護者参加率は10%不足で、1・2年生保護者不在の影響と考えている。PTA総会参加率は、「参加20%」「ライブ視聴5%」「オンデマンド視聴40%」であった。参加方法にライブ・オンデマンドで視聴できる工夫を今年度から実施した成果だと考えている。体育祭や研修旅行、懇親会など保護者との交流の機会を持つことができ、意見交換を交わすなど有意義な時間となった。 ○ホームページアクセス数 1日平均 840件（R8年2月4日現在）	魅力ある学校づくりを目指した行事の工夫・改善が十分にできている。また、保護者との交流の機会をこれまで通りに計画していきたい。保護者向けの発表会や講演会などの企画を充実させるとともに、オンデマンド配信など発信方法の工夫を継続したい。PTA総会の開催時期について、新校になるタイミングで入学式に合わせて実施することも検討したい。 ホームページに加え、インスタグラムを積極的に活用する。個人情報の取扱いに留意しながら、鮮度の高い情報の発信に努めたい。

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）